学校番号	3028

令和８年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	日本史探究	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	「高校日本史」（山川出版社）						
副教材等	「最新 日本史図表」（第一学習社）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

1.　重要史料の解読を通じて日本史に対する認識や知識を深めてみよう。
2.　教科書・副教材に掲載されている豊富な写真などの図版を積極的に活用しよう。特に文化財関係の写真を通じて日本の文化と伝統を学び、文化財保護の重要性を認識すること。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】
我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解している。 ・諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	・我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察し、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想している。 ・考察、構想したことを効果的に説明し、それらを基に議論している。	・我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 ・よりよい社会の実現を視野に、自身との関わりをふまえて学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりを見いだそうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期Ⅰ	原始・古代	①　日本文化のあけぼの ②　古墳とヤマト政権 ③　律令国家の形成 ④　貴族政治の形成	a:基本的な歴史資料を扱う基礎知識や技能が身についている。 b:東アジア世界の動向と関連付け、歴史的事象を整理できている。 c:先史・古代がどのような時代であったかを理解しようとする、主体的態度が見られる。	小テスト 定期考査	発問評価 課題提出	グループワークの観察 発問評価
前期Ⅱ	中世	①　院政と武士の進出 ②　武家政権の成立 ③　武家社会の成長	a:院政期から武家政権成立期の歴史の展開と歴史的環境を関連付けて時代の転換を捉え、中世の特色について理解している。 b:古代から中世への転換の理解や時代を通観する問い、中世を展望する仮説をふまえ、資料を扱う技能を活用し、中世の国家・社会の展開について、事象の意味や意義、関係性、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを多面的・多角的に考察し、根拠を示して表現できる。 c:中世がどのような時代であったかを理解しようとする、主体的態度が見られる。	小テスト 定期考査	発問評価 課題提出	グループワークの観察 発問評価

前期 Ⅲ	近世	①　近世の幕開け ②　幕藩体制の成立と展開 ③　幕藩体制の動揺	a:幕藩体制とその変容、近世の庶民の生活と文化の特色、近代化の基盤の形成を理解している。 b:中世から近世への転換の理解や時代を通観する問い、近世を展望する仮説をふまえ、資料を扱う技能を活用し、近世の国家・社会の展開について、事象の意味や意義、関係性、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを多面的・多角的に考察し、根拠を示して表現する。 c:近世がどのような時代であったかを理解しようとする、主体的態度が見られる。	小テスト 定期考査	発問評価 課題提出	グループワークの観察 発問評価
後期 Ⅰ	近代	①　近世から近代へ ②　近代国家の成立 ③　近代国家の展開と国際関係 ④　近代の産業と生活 ⑤　恐慌と第二次世界大戦	a:幕末から近代初頭の時期の歴史の展開と歴史的環境を関連付けて時代の転換を捉え、近代の特色について理解している。 b:「歴史総合」の学習をふまえ、世界の情勢の変化とその中における日本の相互の関係や、日本の近現代の歴史を、多面的・多角的に考察できる。また、それらをふまえて、現代の日本の諸課題について、多面的・多角的に考察するとともに、歴史的経緯や根拠をふまえて構想する。 c:近代がどのような時代であったかを理解しようとする、主体的態度が見られる。	小テスト 定期考査	発問評価 課題提出	グループワークの観察 発問評価

後期Ⅱ	現代	① 占領下の改革と主権の回復 ② 55年体制と高度経済成長 ③ 現代の情勢	a:我が国の再出発及びその後の政治・経済や対外関係を理解している。 b:近代から現代への転換の理解や時代を通観する問い、現代を展望する仮説をふまえ、資料を扱う技能を活用し、現代の国家・社会の展開について、事象の意味や意義、関係性、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを多面的・多角的に考察し、根拠を示して表現できる。 c:現代がどのような時代であるのかを理解しようとする、主体的態度が見られる。	小テスト 定期考査	発問評価 課題提出	グループワークの観察 発問評価

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度